

心理学部 父母会会報



D O S H I S H A
U N I V E R S I T Y
Faculty of Psychology

No. 05
December.2011



我輩の指す所は基督教主義すなわち知徳併行の教育なり

「梅花女学校における女子教育」から同志社編

『新島襄 教育宗教論集』 岩波文庫、135ページ

D O S H I S H
U N I V E R S I T
Faculty of Psycholo



■ ご挨拶.....	4
■ 父母会イベント	6
■ 学部イベント	7
■ 学生レポート1 「スポーツ懇親会・外国人留学生懇親会」	8
■ 学生レポート2 「ゼミ探訪」	9
■ 学部生の活躍 「ファーストイヤーセミナー ポスター製作発表会」	11
■ 就職情報1 「卒業生 就職アンケート」	12
■ 就職情報2 「2010年度文学部心理学科卒業生実績データ」	14
■ 就職情報3 「2011年度就職活動状況の中間報告」	15
■ わたしの学生生活.....	16
■ ご父母より.....	18
■ 教員メッセージ	19
■ 新島襄クイズ	21
■ 学生生活Q&A.....	22
■ 学部インフォメーション	23

「絆」

初冬の頃、皆様におかれましてはますますご清栄の事と存じます。

日ごろは、父母会の活動に御支援および御協力を賜りまして深く感謝申し上げます。

4月には新入生だった子供達も大学生活や一人暮らしに慣れ、皆様も落ち着かれた頃ではないでしょうか。

父母会の活動は、4月に新入生父母交流会、5月に総会・懇親会、10・11月には地方懇談会が開催され、講演会など毎回趣向を凝らした企画をしています。また、教職員の方々による個人面談も行っています。

毎回懇親会は、ご父母の皆様方からお話を伺いながらお食事をいただき、教職員の方々と交流を深め、たいへん有意義な時間を過ごしています。

是非このような行事にご参加いただく事で、お子様方と同じ京田辺の空気に触れることができ、共通の話題も生まれるのではないのでしょうか。

今年は未曾有の災害に見舞われ、「絆」の一文字が心に深く刻まれた年でした。

教職員の方々、ご父母の皆様方と尚一層連携をとり、子供達をサポートできたらと思います。

最後に、教職員の方々には父母会の活動・運営にご尽力いただき、心より御礼申し上げます。



父母会副会長 田井 明美



「諸君ヨ人一人ハ大切ナリ、一人ハ大切ナリ」

今や同志社ではメジャーになった感のあるこの言葉は、新島が同志社創立十周年記念会の祝辞の中で語ったものです。この祝辞の中で、新島は渡米中に退学処分になった数名の学生のことにふれ、「諸君ト共ニ今往時ヲ追憶シテ紀念シタキハ、昨年我、不在中同志社ヲ放逐セラレタリシ人々ノ事ナリ、真ニ彼等ノ為ニ涙ヲ流サザルヲ得ズ、彼等ハ或ハ真道ヲ聞キ、真ノ学問ヲセシ人々ナレドモ、遂ニ放逐セラルルノコトヲナシタリ、諸君ヨ人一人ハ大切ナリ、一人ハ大切ナリ、往時ハ已ニ去レリ、之ヲ如何トモスルコト能ワズ、以后ハ我儕(われら)実ニ謹ムベシ(先生、流涕胸塞クヲ演(の)ヘラル、満場一人トシテ袖ヲ濡ラサザル者ナカリキ(「新島襄全集P107」より)」と涙ながらに語ったとあります。新町キャンパスに建設中の臨光館の回廊側壁に掲げる言葉に良いものはないかと森田雅憲企画部長より相談されたとき、私はこの「人ひとりは大切なり」という言葉ほど、新島の教育理念を端的に表し、またやがて入学してくる小学校の子供達にも分かる言葉は無いと思い、即座にこの言葉を提案しました。



小学校の校長を兼務しているとき、朝の礼拝で「人一人は大切」という話をしたことがあります。それから、数週間たったころでした、1年生のA君と他の子供達が揉めているところを通りかかりました。A君が、他の子供達のをを乱暴に扱ったことが原因でした。「A君、君がB君のをを乱暴に扱ったことが原因なんだね」というと、A君は突然泣きだし、言いました。「だって、人一人は大切だと先生はいったもん、一人は大切だもん。僕のこと大切だもん」。「A君、そうだよ。君のことはもちろん大切だよ。でもB君も君と同じように大切なんだよ。A君も、他の人のことを大事にしないといけないよね」。さらに数週間後、1年生の朝の礼拝でこの件に触れました。「この揉め事の原因はどこにあったのだろうね」と聞くと、A君が勢いよく手を挙げました。「はい、その子が皆のことを自分のことのように大切にしなかったからだと思います」。でもその後のA君の行動に大きな変化は見られません。言葉で人に物事を伝えるというのは、難しいことだなあと思いました。でも同時に子供達がその言葉を覚えていてくれたことにも感動しました。

心理学部長 鈴木 直人

■ 父母会イベント

2011年度同志社キャンパスフェスタ

同志社大学では「同志社大学の今と未来」を卒業生、在学生ご父母、高校生をはじめ多くの方々にご理解いただくことをねらいとし、今年も「同志社キャンパスフェスタ」を全国（仙台・福井・東京・鹿児島・静岡・山形・広島）で展開しました。各会場では、著名卒業生による講演会・入試説明会・地元企業の就職講演会など盛りだくさんの企画が用意され、心理学部父母会も地方懇談会を同時開催し、各地に教職員が出向き、地方在住の在学生ご父母の意見に耳を傾ける貴重な機会となりました。

今後も各地へ何う予定となっていますので、お近くに立ち寄りました際は、ぜひとも足を運んでいただけますようお願い申し上げます。



心理学部講演会 & 心理学部父母会京都地方懇談会

2011年11月5日（土）京田辺キャンパス知真館にて「心理学部講演会」「心理学部父母会京都地方懇談会」を開催しました。講演会では、心理学部 上北朋子助教による「心理学と神経科学～ネズミの行動からみえるもの～」と題した生理心理学的・神経行動科学的研究に沿ったお話し、そして動画を用いて、学部生の授業風景を分かりやすくご説明いただきました。一方、懇談会では、役員・ご父母・教職員総勢42名の方々ご出席のもと、鈴木学部長のご挨拶・主催者父母会役員のご紹介・教員による学部近況報告などを実施し、引き続き、ご父母と教員の個人面談を行いました。こちらも毎年実施しています。日ごろの疑問・気になる事などお話しできますので、多くのご父母皆様のご参加をお待ちしています。

また、当日はあいにくの雨の中、キャンパスでは京田辺市との共催事業「同志社京田辺祭2011（クローバー祭）」が開催され、今年は2011国民文化祭京都とのコラボレーション企画や京田辺キャンパス開校25周年記念行事など例年以上の規模で行われました。京田辺市民の方々や学生たちの多くの参加があり、地域連携に同志社大学が貢献できたのではないのでしょうか。



心理学部講演会



心理学部父母会京都地方懇談会

■ 学部イベント



赤ちゃんフォーラム [7月23日(土)]

京都府立けいはんなホールで「第3回赤ちゃんにやさしい都市づくりフォーラム(京都府・同志社大学主催)」が開催され、家族連れ等約1500人が参加しました。フォーラムでは赤ちゃんの発達や行動などを解明し母親や保育士らに還元する目的で開設された同志社大学赤ちゃん学研究センターの先生方が最新研究成果である「赤ちゃんの視線のゆくえに潜在する優れた能力」を紹介しました。2011国民文化祭京都のゆるキャラ「まゆまる」なども登場し、ちびっ子たちの歓声があがっていました。

心理学部シンポジウム2011 [10月1日(土)]

寒梅館ハーディーホールで『「わたし」をめぐる探求：科学と臨床をむすぶ』というタイトルで心理学部開設記念シンポジウムを開催しました。第一部は基調講演として、坂井克之東京大学大学院准教授による『「わたし」はどこにいるのか?』と題する講演、第二部では及川昌典心理学部助教、武藤崇心理学部教授、濱野清志京都文教大学臨床心理学部教授に話題提供いただきました。その後、全登壇者でパネルディスカッションを行い、それぞれの専門である脳科学・社会心理学・臨床心理学から見た『「わたし」』について活発な議論が展開され、集まった500名近い観客は最先端の話題を楽しむ機会となった様子でした。



同志社大学
Doshisha University

心理学部 開設記念シンポジウム2011
「わたし」をめぐる探求
科学と臨床をむすぶ
私の知らない「わたし」に出会う。
脳・心・行動・社会の関係を解明し、臨床に還元する心理学の研究成果を
あなただけに伝えたい。これこそが、わたしたちの使命。このシンポジウムで、最新の研究成果を
皆さんと共有したいと思います。

2011年10月1日(土)
会場：寒梅館ハーディーホール(京都市中京区) 13:00~17:00(開場12:30)
観覧料：無料
申し込み：不要

講演者：坂井 克之 (東京大学大学院准教授) 及川 昌典 (同志社大学心理学部助教) 武藤 崇 (同志社大学心理学部教授) 濱野 清志 (京都文教大学臨床心理学部教授)

主催：同志社大学心理学部



ソフトボール大会 [11月3日(木・祝)]

秋空の下、心理学部1~3年次生・文学部心理学科4年次生・心理学研究科生・教職員が集合し、ソフトボール大会を実施しました。4チーム対抗で競い合い、真剣勝負で白熱した時間を過ごし優勝したのは、竹原先生率いるチーム「ハスキーズ」。試合後の懇親会で健闘を称え、優勝トロフィーが授与されました。



表彰式



優勝チーム「ハスキーズ」

スポーツ推薦選抜入試・外国人留学生入試で入学した学生と教職員が集う毎年恒例の懇親会を行いました。日頃の部活動の活躍や日常生活での出来事・エピソードなど発表してもらい賑やかな時間を過ごしました。



■ スポーツ懇親会



学業と部活の両立

心理学部心理学科 1 年次生
大澤 陽さん

この度、文章を書かせていただく大澤 陽（おおさわ あきら）と申します。北海道苫小牧市から歴史の深い同志社大学で学び、勉強、部活動だけではなく、人間的に心も身体も大きく成長したいと思いスポーツ推薦で入学しました。今回は、このような機会を設けていただき大変感謝しております。

さて、今回は部活動と学業の両立ということで、少々紹介させていただきます。私はアイスホッケーというスポーツを小学 2 年生から今もおこなっています。あまり日本では馴染みのないスポーツではありますが、スピード感、ファイティングスピリッツが多くみられ、とても魅力のあるスポーツです。ですが、同志社大学にはスケートリンクがないため主に練習・試合会場としては関西大学アイスアリーナを使用させてもらっています。さらに、練習は夜中にしており、自宅から



約 1 時間かけてアリーナに向かいます。そうすると平日の練習の次の日の学校はほとんど寝ない状態で学校に行き、講義を受けています。練習環境は高校生の時とは違って良いとは言いがたい状況ですが、学生である以上自分のやりたいことをさせてもらっているのも、きつくても学業は疎かにしないで生活を送っています。その点、入学当初はとても苦労しておりましたが、今は学校に行けばたくさんの友人がいて刺激をもらえているので、妥協せず有意義な学校生活を送れています。心理学部は他の学部よりも人数が少なく交流も多いので、顔見知りが多く、私自身もすぐに周りに溶け込むことができました。勉強は難しく大変ですが、この貴重な 4 年間で無駄にせずに学業と部活動を両立できるように頑張っていきたいです。

■ 外国人留学生懇親会



韓国から日本へ来て

心理学部心理学科 1 年次生
安 汝津さん

私が日本に来てから半年が経ちました。いまはやっと日本に慣れましたが、やはり他国ですぐ慣れるのは難しかったです。自分で料理も洗濯も買い物も全部しないといけないので、新しい友達に付き合うのも、私にとっては外国人や日本人の友達と仲良くなるのがとても難しかったです。そのストレスで結局病気になるまい、勉強も進めずにいるもほんやりしているだけでした。でも、皆が助けてくれたおかげでやっと慣れました。自分で料理するのも、買い物するのも、日本人の友達と仲良くなるのも慣れました。他国の留学生生活は自分を成長させてくれ大事な経験ができたのでいま

はすごく嬉しいです。最初は「私はなぜここにいるのか」と疑問を持ったことがありましたが、いまは大事な経験ができたので両親にすごく感謝しています。いまの私の目標は勉強を頑張っている成績をとって、英語の能力をより高めて派遣留学に行くことです。東洋人・西洋人は違う価値観を持っているのでアメリカでも心理学を勉強したいと思っているからです。様々なことができる同志社大学でいろんなことをやりながら留学生生活を続けていきたいと思っています。



中谷内 一也ゼミ (専門: リスク心理学・社会心理学)



卒業研究の取り組み

心理学部心理学科 3年次生

戸田 香菜絵さん

中谷内ゼミは中谷内教授のご専門であるリスク心理学や社会心理学全般についての研究に取り組んでいます。

今はそれぞれが卒業研究でやりたいテーマを発表し、それをゼミ生全員で共有しています。従来からある社会心理学の研究を3月11日に発生した東日本大震災に関連させて研究したいと考えている人が多いようです。実際、私もその一人です。人々が興味を持っているであろう震災に関連した研究をすることは、とても意義のあることだと考えています。また、も

うじき卒業研究の概要の提出が控えているので各自、自分の研究に関連する論文を探し先行研究を調べています。

まだゼミは始まったばかりですが、賑やかな雰囲気でもみんな高いモチベーションで卒業研究に取り組んでいると思います。教授のお話やゼミ生の発言から新しい発見があり、私自身たくさんの刺激をもらっています。心理学部での4年間の集大成としてより良い卒業研究ができるように、このゼミでたくさんの方の学びを生かしていきたいと思っています。



ゼミの魅力

心理学部心理学科 3年次生

浅田 喬子さん

中谷内ゼミでは、「リスク認知研究」と「その他の社会心理学」を研究領域としています。最近の授業では全員で震災時の人々の心理・行動傾向についてビデオを見て、それに関する考察を行いました。ゼミの雰囲気としては、全体的に和気あいあいとしています。授業中に笑いも起きますし誰かが教授のボケにツッコミをします。その反面、意見の交換時には、しっかりと発言し考えを共有する等、授業中のメリハリがあります。新しい知識を学びながら、それを自身の持つ知識と合

わせ意見を述べるので、各自がただそこに居るのではなく本当にその問題点を理解しようまたは改善策を考えようと思います。また、その後に他の意見を聞くことによって自身とは違う視点を含んだ深い考察をすることができます。

このように楽しい中にもケジメがしっかりとあり、受身ではない積極的かつ自身の実になる学びが出来るのがこのゼミの特徴であり、そのような雰囲気を作って下さる沢尻エリカ好きな中谷内教授がおられるのが最大の魅力だと思います。



Teacher's Voice

心理学部心理学科

中谷内 一也 教授

卒業研究に傾注し自分を磨け！

どの学部であろうが、どの学年であろうが、いろいろな個性が混ざり合うゼミ活動は毎年刺激的ですが、今年度は人数が倍増したこと、改組初年度特有の“熱”があって、いっそう面白いものになりつつあります。心理学部から心理学部へと拡充する作業はわれわれ教職員にとってもチャレンジングなのですが、そこにやってきた君たちも、不透明な新学部飛び込んで来ているわけで、すでに相当な冒険をしているのです。もうこうなったら冒険ついでで、ヤバイくらいに卒業研究にコミットしてみてください。



神山 貴弥ゼミ(専門:学校心理学・教育社会心理学)



多角的な視点で

心理学部心理学科 3年次生
小槻 茜子さん

私たち神山ゼミは13名で、仲間関係や学校適応に関する教育心理学の分野や、説得や態度変容に関する社会心理学の分野について研究するゼミです。3年次生の秋学期からプレゼミとしてまだ始まったばかりですが、今までの授業の雰囲気と違い、輪になって話し合い、お互いに肩の力を抜いて取り組める雰囲気があります。

神山ゼミでは、まず自分のやりたい研究を決めるために約1〜2カ月かけて自分が興味をもつ論文を3本ほど探し、そ

の内容紹介と、現時点で卒業論文として取り組んでみたいことを各自発表するということから始めています。研究内容を決める時間がしっかりとあり、自分以外のゼミのメンバーの探してきた論文紹介をきくことで、また新しい違った研究課題を見つけることができます。そしてその内容から共同研究をおこなうメンバーを決めて、いよいよ研究を本格的にすすめていくといった流れとなっています。

今年から2〜3名の共同研究となり、1人の研究とはまた違い、より多角的な視点をもつことができると思います。実際に教育現場に行かせていただき調査できることもあり、私はこのゼミを選んだので、この恵まれた環境を生かして、満足のいく卒業研究をおこなえるようにがんばりたいと思います。



フリーダムなゼミ

心理学部心理学科 3年次生
曽我部 貴文さん

神山先生の研究分野が学校心理学ということもあり、私たちゼミ生は教育心理学に関心を持っている学生が多く集まっています。さらに、教育の分野だけでなくそれに関連している仲間関係や社会的欲求、態度変容などの社会心理学の分野を学ぶためにこのゼミにやってきた者もあり、私もそのうちの一人です。今現在は、卒業論文のテーマないしは方向性を定めていくことをメインとしています。早いうちにテーマを決めておくと、就職活動や大学院試験に向けてのペース配分な

どが効率良く行えるという神山先生の配慮でもあります。

実際に卒業論文は2〜3名で進行していくとのことなので、まず個々で興味のある分野とその論文を探し、それをみんなに発表していきます。そしてその中から似たような分野、近い研究を先生がピックアップしていきグループ作りの参考にしていくというものです。もちろん自分が扱いたいテーマが具体的に決定していない学生もいるので、そのような人たちのために複数回に分けて行い、いろいろな研究に触れられる機会を増やしていく予定です。研究自体も必ずしも先生が専門とする領域だけでなくとも良いとされているのでフリーダムなゼミといえると思います。



Teacher's Voice

心理学部心理学科
神山 貴弥 教授

ほっこり、伸び伸びと

心理学部では、これから社会に出て必要とされる力の一つ、人とのかかわり協働できる力を大切に1年次生から少人数グループでの授業を取り入れています。ゼミは4年間の学びの集大成の場でもあることから、独自のテーマで単独で卒業研究を進めることも可能ですが、心理学部になってからは共同研究を推奨しています。いずれにせよゼミでの活動そのものが共同での学びの場ですので、インフォーマルな部分での交流を含めて、お互いが刺激し合い高め合う場になってくれることを願っています。

■ ファーストイヤーセミナー ポスター製作発表会

毎年、1年次生の必修科目「ファーストイヤーセミナー」では、グループ毎に題材を決め、調査し、ポスターにまとめて発表する課題があります。
今年の優勝したチームをご紹介します。

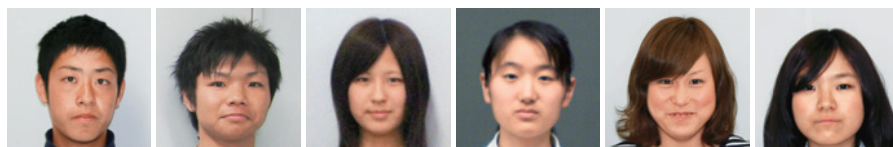
テーマ 肥満の不満

【要旨】

「肥満」、この二文字の言葉に対して、みなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。「健康的でない」、「社会的に問題になりつつある」など、あまり良いイメージは持たれないかと思えます。それでは、いったい「肥満」であることが我々の社会生活にどのような悪影響を及ぼすのでしょうか。私たち3-B班は、このファーストイヤーセミナーでのポスター製作の内容の題名を「肥満の不満」とし、数々の統計データや心理学者の先行研究から、「肥満」が我々に及ぼす社会的弊害、それらによって肥満者が社会活動においてどれだけ不利な状況に置かれるかということを詳しく調べてみました。

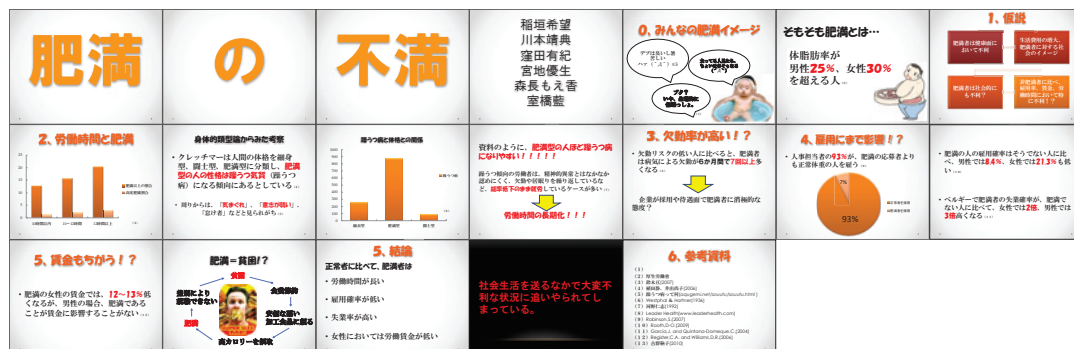


ポスター製作活動を終えて



稲垣 希望さん 川本 靖典さん 窪田 有紀さん 宮地 優生さん 森長 もえ香さん 室橋 藍さん [心理学部心理学1年次生]

ファーストイヤーセミナーでのポスター製作活動を終えて、まず私たち3-B班が感じたのは、資料集めの難しさでした。今回、私たちがポスター製作の題材にしたのは、「肥満の不満」ということで「肥満が我々に及ぼす社会的弊害」でしたが、たとえばインターネット上で「肥満」についてのおもしろいコラムを見つけても、それに科学的根拠を持たせる統計データがありません。逆に、しっかりとした統計データはあっても、それに添えるエピソードが見つからない…ということもありました。そのために、授業の空き時間や昼休みに何度も集まり、インターネットや文献を用いて使える資料を探しました。大変な作業でしたが、このグループワークを通じて協力することの大切さや、理論的に伝えることの大切さを学ぶことができました。この経験をこれからの学びや心理学部としての活動に生かしていきたいと思います。



■ 卒業生 就職アンケート



片岡 優貴子さん
(2010年度 文学部心理学科 卒業)

①就職先名:

神戸市役所(一般行政)

②公務員を目指されたきっかけを教えてください。

人と接することが好きで、在学時にも接客のアルバイトをレストランや家具の販売店ですており、行政を仕事にすることで、間接的ではありますが、もっともっと多くの人を笑顔にするために動くことができました。多くの人と関わることができるのではないかと考えたためです。公務員の中でも神戸市役所を選んだ理由は、生まれ育った神戸の街が好きで愛着を感じていたため、神戸市をもっと「住んでいてよかった」「遊びに来てよかった」と言ってもらえるような街づくりに携わってみたいと考えたからです。

③就職活動を始めた時期はいつですか。また何から始めましたか。

大学3年次の6月です。公務員試験のため大手の予備校に通い始めました。最初はどの試験でも必要な法律科目から勉強し始めました。

④採用試験についてお聞かせください。(内容や対策など)

神戸市の法律区分での採用試験を受験しました。採用試験は3次までありました。

1次試験の科目は、教養と専門です。教養は、知能分野と呼ばれる文章理解・判断推理・数的推理・資料解釈について25題必須解答、知識分野と呼ばれる社会科学・人文科学・自然科学について25題中15題を選択解答するものです。専門は、一般行政区分の法律科目を選択し、憲法・行政法・民法について30題必須解答するものでした。

とにかく、問題数の多い知能分野を解けるようににならないと公務員試験合格は厳しいと思います。私は数的推理があまり得意ではなく苦労した面もありました。とにかく反復練習が大切な、と思います。知識分野はたとえば化学や物理等は、勉強したことがないなら選択しないこともできます。出題される科目数も多く、浅く広く知識を問われるので、一通り勉強してみて得意だと思う科目の知識を重点的につけていけばいいと思います。

専門については、神戸市は法律区分、経済区分(ちなみに科目は経済原論・財政学・経済政策・経済事情です)等の区分に分かれていましたが、他の公務員試験は法律も経済学も出題されるところが多いので神戸市以外を受験するならばどちらも勉強する必要があります。

2次試験は個別面接と集団討論です。個別面接では部屋がブースに仕切られ、面接官と2対1で面接が行われます。雰囲気はすこ和やかです。集団討論では神戸市に何かしら関係のあるテーマについてグループで話し合って結論を出します。テーマは当日集団討論が始まってから指示されます。

個別面接においての対策は、自分が大学時代どんなことを一生懸命やってきたのか(勉強、部活、アルバイト、サークル等)・それをどう神戸市に生かしていけるかと考えているか・神戸市職員となったら何をやってみたいか・神戸市が好きかを自分の言葉で熟意を持ってどれくらい語れるかということに絞られると思います。私はアルバイトで接客をやっていたことをエピソードをまじえて話し、神戸市ではこの経験を生かしてどんな仕事をしていきたいかを話しました。あと、話す言葉も大事ですが、笑顔や、面接官の言葉をうなずきながら聞くこと、ブース入室時のお辞儀や「失礼いたします」という挨拶の声の大きさ等も重要な要素だと思います。

集団討論においての対策は、その場でテーマを知るため、新聞やニュースを通じ、過去1年ほどの神戸市に関する様々な事項にアンテナを張っておくぐらいのことしかありません。日常において様々な出来事に自分の意見を持ち、どうして自分はこう思うのかを自分の言葉で話す機会を多く持つておくのはいいいことかな、と思います。心理学科でのゼミでは、自分の調べた論文について発表をしたり、それについてディスカッションをする形式だったため、このような場に慣れることができていたことにまずごう助けられました。

3次試験は個別面接と論文です。個別面接については2次試験と雰囲気は変わりません。2次で聞かれたことをより深く聞かれたり、新たな切り口から聞かれたりします。2次と同じく態度の要素も重要だと思います。論文は、試験が始まってから指示されるテーマに沿い、自分の考えを書くものです。立派なことを書く必要はおそらくなく、テーマにしっかり沿った論理的な文章を書くということの方が大切なかな、と思います。

⑤採用試験はどのくらい受けましたか。

民間企業の試験は受けず、国家公務員や地方公務員を含めて1次試験は8回受験しました。公務員試験はあまり日が重なることなく多くの試験を受験するチャンスがあります。無料ですし、できるだけ受験してみるのがいいのではと思います。

⑥就職活動中、授業は受けられましたか。(就職活動と授業のバランスの取り方)

3年次では講義後に予備校に通っていたので、授業に出られないということはなかったように思います。4年次の試験の時期も、大学の授業はゼミのみになっていたのもそこの負担ということはありませんでした。ただ、公務員試験の勉強で慌たしく、最終合格が9月頃だったこともあり、卒論が春学期中ではあまり進められなかったのも秋学期は卒論を急ピッチで進めていました。

⑦就職活動中、大学の支援はどうでしたか。

様々な公務員の採用説明会が学内で催されており、他の大学等に出かけていなくてもいろんな公務員の採用について聞くことができたので助かりました。試験の直前期はゼミの先生の多大なご理解もあり、試験の学習を優先できていました。

⑧就職活動は終わられてどうでしたか。

公務員試験は民間の採用試験が落ち着いた頃から本格的に始まり、最終的に決まるまでの期間が夏頃までとても長く、勉強の期間も1年を超えるため、不安になった時期もありましたが、終わってみれば、第一志望の神戸市に合格することができとてもよかったです。素直に、行くところが決まってくれた、という安心感をおぼえました。4月から働いてみて、改めて神戸市役所はとてもよい職場だなと感じます。先輩も上司も、穏やかな方が多く、分からないことの質問等もしやすい環境です。同期もみんな仲がよいです。都市計画総局という部署で神戸の街づくりに多少なりとも携わることができているので、面接時に伝えた希望に偶然かもしれませんが近いところに配属が決まったことも嬉しかったです。

⑨就職活動の際、ご家庭から助けられり難かった点、またはこうして欲しかった点などお聞かせください。

実家だったこともあり、予備校で勉強をして帰るとどうしても遅くなってしまうのですが軽い食事を用意してきてくれたり、だらけてしまいうるになると、「勉強、大丈夫なん?」と声をかけてくれたことはありがたいなと感じています。

⑩在学生へメッセージ

公務員を目指す人は心理学部ではそんなにはいないかも知れませんが、しかし、人の心について一般の人よりも深く学ぶ経験をしたということは、多種多様な考え方や背景をもつ様々な方と接する、究極のサービス業である公務員という職業にとっては絶対プラスになることだと思います。人と接することが好きな方にはきっと向いている職業です。心理学を生かして公務員になることも一手ですが、職種は限られます。行政という大きなカテゴリーでの仕事がいらないと思う方は、まずは自分の育った市や住んでいる市の行う生活に密着した施策等に興味を持ってつことから始めてみていただくのがよいのではないのでしょうか。



三宅 瑤子さん
(2010年度 文学部心理学科 卒業)

①就職先名:

宮城県利府町立利府中学校

②教員を目指されたきっかけを教えてください。

4年次で教育実習に行くまでは、正直教師になろうとは思っていませんでした。3年次の秋頃から一般企業の就職活動をしていましたが、説明会や面接に行くたびに、「企業が求めるものと私が仕事に求めるものが何か違うな」という違和感がありました。そんな中、教育実習に行くことになったのですが、教育実習は楽しいことばかりではなく、むしろ大変なことばかりでした。それにもかかわらず、実習が終わった後も、つい実習校のことを思い出したり、学校教育について考えたりすることが多くなっていました。そこで気がついたのは、私が感じた企業への違和感は、企業が「利益」や「効率」を第一に考えている組織であることに由来している、ということでした。教育実習に行き、学校はまったく逆の存在だと感じました。学校は、例えば合唱コンクールなどの行事の場合、歌ってない生徒がいようが、遊んでいる生徒がいようが、教師があまり注意せず、見守ることがあります。合唱コンクールを成功させること、賞を取ることが目標ならば、教師が積極的に介入して、歌ってない生徒を厳しく注意すればいいだけです。その方が効率も良いと言えます。しかし、合唱コンクールは賞を取ること目標の一つですが、それ以外にも、クラスの団結力を育むといった、集団生活でかかせないことを学ぶ場でもあります。生徒自身が自分達で合唱を作る必要があります。見守ることは効率が悪いですが、教育現場ではかかせないことです。また、成果がすぐ出るものでもありません。常に生徒と対話し、お互い悩みながら模索していくしかありません。ですが、「利益」や「効率」よりもそういう泥臭い、血の通った交流のある集団の方が私に合っているのではないかと思い教師を目指したように感じます。ただ、実習の時にうまくいかなかったことが悔しかった、もっと学校教育を考えていきたいという思いもあったのかもしれませんが。

③教員免許取得までの流れと苦労した点をお聞かせください。

親にお金を払ってもらって大学に入学したのだから、教員免許くらいは取っておかないといけないなと思い、履修登録しました。ですから、最初は本当に軽い気持ちでした。苦労した点は、履修科目が多いことで時間割が立て込むことと、教育実習が4年次にあったのでそれまでに卒論の実験や論文をある程度固めなければいけないという2点です。心理学科では、最初は教職の登録をしていた人が多かったのですが、どんどんやめていき、最終的に教員免許を取得したのは小人数でした。大変なこと多かったけれど、教員免許取得を目指す仲間がいたからなんと乗り越えられました。

④教育実習はどうでしたか。

生徒としてではなく、教師として母校にいるのはとても不思議な感覚でした。教育実習は楽しかったことよりも、辛く、大変で、たくさん悩んだことの方が多かったです。授業では、黒板の書き

方という初歩的なところから苦戦しました。授業を終えるごとに教科担当の先生と反省点を話し合い、次の授業はどうすべきか模索していく毎日でした。クラスによって反応の良いクラスや静かなクラスがあるので、教科書と同じ所をやっても全然違う授業になることもありました。納得のいく授業は一回もできませんでした。毎日一生懸命取り組みました。授業準備に追われてしまい、生徒と接する時間が少なくなってしまったのは残念でした。生徒指導では、生徒との距離感をつかむのに苦労しました。早く生徒と溶け込みたい反面、生徒と友達のようになってしまってもいけないからです。また、生徒がふざけたりして問題を起こした時、すぐ怒ってしまいがちですが、ガミガミ怒るだけではいけないということも学びました。見守ることによって自分で気付かせる、そういった根気強さも必要なことなのだと学びました。また、怒る時は怒った表情を作らなくてはいけないのも苦労しました。日々悩み、反省を繰り返した3週間でした。大変なことばかりでしたが、一つだけ良いことがありました。それは実習最終日に生徒が私との別れを悲しんで泣いてくれたことです。その涙を見た瞬間、3週間頑張ってきた良さと、心から思いました。実習中の苦労も全て吹き飛ばすような出来事でした。

⑤採用試験についてお聞かせください。(内容や対策など)

内容や対策は受ける県によって異なると思うので、割愛します。

⑥採用試験はどのくらい受けましたか。

宮城県中学社会科のみ

⑦就職活動中、授業は受けられましたか。(就職活動と授業のバランスの取り方)

授業は優先していました。ただ、周りでは授業ではなく就職活動を優先している人の方が多かったように感じます。

⑧就職活動中、大学の支援はどうでしたか。

他大学の就職活動支援がどのようになっているのかわからないので、良いのか悪いのか評価できません。

⑨就職活動の際、ご家庭から助けられ有り難かった点、またはこうして欲しかった点などお聞かせください。

家庭からの助けはほぼ皆無でした。

⑩在学生へメッセージ

進路に迷ったり悩んだりしている人も多いと思います。悩んでいるのは一生懸命生きている証拠だと思います。悩み苦しんだ分成長できるのが人間だと私は思います。悩み、苦しみを抜いて自分の将来を切り開いてください。

2010年度文学部心理学科卒業生実績データ

■ 就職先／進学先一覧

男 女

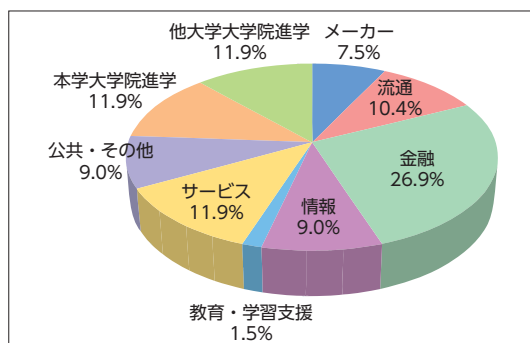
進路名称	企業名／進学名	都道府県名／研究科名	人数	企業名／進学名	都道府県名／研究科名	人数
就職 (正規雇用)	株式会社ニトリ	北海道	1	アメリカンファミリー生命保険会社	東京都	1
	日立電子サービス株式会社	東京都	1	ジャパントータルロブロス株式会社	東京都	1
	株式会社ボストン・コンサルティング・グループ	東京都	1	ブレーンバンク株式会社	東京都	1
	WDB株式会社	東京都	1	家庭裁判所調査官補Ⅰ種	東京都	1
	日本駐車場開発株式会社	大阪府	1	株式会社ジマス	東京都	1
	タカラスタンダード株式会社	大阪府	1	株式会社マクロミル	東京都	1
	大阪市信用金庫	大阪府	1	株式会社みずほフィナンシャルグループ	東京都	1
	日の出証券株式会社	大阪府	1	株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都	1
	草津市	滋賀県	1	三井住友海上火災保険株式会社	東京都	3
	株式会社平和堂	滋賀県	1	野村證券株式会社	東京都	1
	株式会社三重銀行	三重県	1	株式会社インテック	富山県	1
	イントフロード株式会社	京都府	1	福井テレビジョン放送株式会社	福井県	1
				トヨタ部品三重共販株式会社	三重県	1
				株式会社第三銀行	三重県	1
				栄光真珠株式会社	三重県	1
				津医療生活協同組合	三重県	1
				滋賀県赤十字血液センター	滋賀県	1
				オムロン株式会社	京都府	1
				株式会社ナレッジデータベース	京都府	1
				京都中央信用金庫	京都府	2
				京都府	京都府	1
				谷村実業株式会社	京都府	1
				株式会社アイティーエス	大阪府	1
				株式会社シーズコーポレーション	大阪府	1
				株式会社ヒロコービー	大阪府	1
				株式会社りそなホールディングス	大阪府	1
				株式会社高島屋	大阪府	1
				住友生命保険相互会社	大阪府	1
				十三信用金庫	大阪府	1
				神戸市	兵庫県	1
				株式会社南都銀行	奈良県	2
				株式会社ファーストリテイリング	山口県	1
				株式会社博多座	福岡県	1
				TOTO株式会社	福岡県	1
				株式会社西川印刷	熊本県	1
		計	12		計	39
進学	同志社大学大学院	心理学研究科	3	同志社大学大学院	心理学研究科	5
	名古屋大学大学院	教育発達科学研究科	1	九州大学大学院	人間環境学府	1
	佛教大学大学院	教育学研究科	1	神戸大学大学院	人間発達環境学研究科	1
	甲南大学大学院		1	沖縄国際大学大学院	地域文化研究科	1
				京都教育大学	臨床心理学科	1
				関西大学大学院		1
		計	6		計	10
		男計	18		女計	49

※表中の都道府県名は当該企業の本社所在地を示しています

※企業名が不明の場合は掲載しておりません

■ 人数内訳・業種別一覧

	男	女	合計	%
メーカー	1	4	5	7.5%
流通	2	5	7	10.4%
金融	3	15	18	26.9%
情報	2	4	6	9.0%
教育・学習支援	0	1	1	1.5%
サービス	3	5	8	11.9%
公共・その他	1	5	6	9.0%
本学大学院進学	3	5	8	11.9%
他大学大学院進学	3	5	8	11.9%
総計	18	49	67	100.0%



■ 2011年度就職活動状況の中間報告

東日本大震災による被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りいたします。この未曾有の震災の影響を受けて、今年度の就職活動にも、これまでに例のない混乱が生じています。数多くの企業が2011年度の新卒採用選考の延期や変更を行っていて、またこれらの情報が錯綜するなど、就職活動者においては一層の柔軟性や忍耐力が求められる年となりました。円高が日本経済に与えた打撃や、世界的な景気の低迷や先行きの不安も加わり、一時は上向き傾向にあった就職活動状況は、再び厳しさを増してきているといえるでしょう。



2010年度を振り返りますと、心理学科では内定率が100%、文学部全体的でも92.4%という極めて恵まれた状況でありました（進路の詳細についてはP.14参照）。このような状況を維持すべく、今年度の混乱した雇用情勢に対して、学生たちが少しでも就職活動に専念できるようにと、大学および心理学科は個別相談を中心としたサポート体制の強化をはかってきました。心理学科4年次生は、就職活動はもちろんのこと、これまでの大学での学びを振り返り、その集大成として卒業研究を論文にまとめる上でも重要な時期を迎えています。企業の選考時期の遅れなどから生じた空白期間を有効に活用できるようにと、夏休みや休日にも集中指導を行うなど、大学教員も学生一人ひとりのニーズや状況に応じた柔軟な指導に努力してきました。

様々な変化に翻弄された上半期が過ぎ、秋に入ると就職活動もようやく落ち着きを取り戻しつつあります。多くの学生はこのような異例の困難を乗り越え、むしろ自らの進路や研究関心を見つめ直す契機としているようです。混乱状況にいる学生は、心理学部教員や大学のキャリアセンターを大いに活用するようにしてください。日本にとって忘れることのできない年となった2011年度心理学科卒業生たちが、これからの日本を力強く牽引してくれることを望みます。

心理学部就職支援委員長 及川 昌典 助教

わたしの学生生活



大学生になって

五幣 梨華さん [心理学部心理学科1年次生]

大学に入学してから半年が過ぎました。はじめの頃は、大学というのは何をやるにも自分次第なところで、頼れる人も少なかったためにとても戸惑いました。けれど今ではようやく大学にも慣れ、また、心理学部は比較的生徒数の少ない学部なので、学部内の友達もたくさんできました。最近はサークル活動やアルバイトなどもしつつ、楽しい学校生活を送れています。

しかし、大学生になって感じるの、大学では自由に好きなことをできる余裕はたくさんあるけれど、それをうまく使えなければ、時間が全然足りなくなることです。学校の講義に、遊びやサークル、アルバイト、そして自分の勉強。これらをうまくこなすためにはいかに上手

に時間を使うかがとても大事です。例えば、遊びすぎたり、アルバイトをしすぎると学校のことに手が回らなくなってしまいます。だからといってそれらをすべて削ってしまうと、せっかくの大学生活が面白みのないものになってしまいます。なので私は、大学生という時間に余裕のあるうちに、それを有効に使って色々なことを経験しておきたいと思っています。

大学ではなんでも自分から行動していかなければ始まりません。大学生活を充実させるためにも、積極的に色々なことに取り組んでいきたいと考えています。



忙しくも楽しい学生生活

山下 翔さん [心理学部心理学科1年次生]

入学してあっという間に半年が過ぎました。4月は「友達が出来かな」「どのサークルに入ろうかな」と悩んでいましたが、すぐに友達も出来てサークルも決まり、慌ただしい毎日でした。5月と6月は、90分という大学の授業にも慣れてきて、少し余裕が出てきました。7月と8月は試験期間ということもあり試験勉強に追われ、アルバイトもしていたので、両立の難しさを痛感しました。(後にアルバイト先のご厚意により、勤務日数を減らしていただきました。)

大学生になって様々なことを経験しましたが、中でも印象に残ったことが3つあります。

1つ目は色々な人との交流です。大学になると近畿だけではなく、ほかの地域・国から来ている人もたくさんいます。僕は、大阪出身で大阪以外の人と関わるのはあまり

無かったのですが、様々な人の出身地や国の文化、方言など知ることができ自分にとって新鮮なことでした。

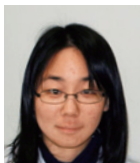
2つ目はサークルです。僕は、フットサルのサークルに入っていますが、1年次生も多くいいプレーをしたときは、互いに褒め合い、皆楽しんで活動しています。先輩方は、とても優しくて気さくな人ばかりなのでとても雰囲気がいいです。秋学期には、大会やスポーツフェスティバルがあるので、結果を残せるように励まし頑張っています。

3つ目はアルバイトです。3月から始めましたが、接客の難しさを感じています。パートの人の年齢層が広く、社会に出ることの責任感や厳しさ、そして楽しさも教えてくれます。

今後も、もっと色々なことを経験し、今以上に楽しい大学生活を送り続けたいと思っています。

在学生PHOTOアルバム ～学生生活の一コマより～





サークルで学んだこと

河内 敦子さん [心理学部心理学科2年生]

心理学部生となって二回目の秋が来ました。いよいよ専門的になってきた勉強に泣き言もこぼしつつ、充実した日々を送っています。

所属している混声合唱サークルの合唱コンクールが少し前に終わりました。夏の台風で合宿所が被災するなど困難もありましたが、銀賞という結果を収めることができました。一年次生として右も左も分からず歌っていた頃とは違い、主体的に動けるようになったことで今年は舞台ひとつ取っても強い思い入れがあります。言葉ひとつ、和音ひとつをひたすら追求する合唱は脳と腹筋を酷使して、想像していたよりずっと難しいものです。ですが、本気で取り組んでいるためにつらい思いもするけれど、本気で取り組んでいるからこそ楽しい。そう思えるも

のに出会えたことはとても幸せなことだと思います。

一息つく間もなく、12月には定期演奏会が控えています。コンクールとはまた別の、たくさんの新しい曲に出会うワクワクした気分や、ステージごとの違いのおもしろさ、今年の集大成としての重さは定期演奏会でしか味わえず、いまから楽しみです。

「その気になればその顔になり、その顔になればその声になる」とはサークルを長年見てくださっている指揮の先生の言葉です。これは合唱以外の多くのことにも当てはまります。目指すものがあるなら、まず気持ちを強く持つこと。大学生の間、貪欲かつ真摯に、目指すものに近づいていきたいと思っています。



越えられない壁

高間 裕司さん [心理学部心理学科2年生]

大学へ片道1時間半の道のりを好きな音楽を聴きながら通い続けてもう1年と半年が過ぎました。この1年半で、サークルはアカペラと心理学の実験サークルの2つを兼部し、大阪は此花区の某巨大テーマパークにおいてスペースでファンタジーなアルバイトも始め、わりと忙しい日々を送っております。

さて、突然ですが僕にはひとり、4つ上の兄がおります。兄とは大学、学部、目の細さが一緒であり、さらに彼は大学院にも進んでいるため、僕と学校で出くわしたり、僕の出る授業のTAをしていたりします。兄は弟の僕からすれば、勝てる要素のない人間であり、小さいときから今にいたるまで体毛の濃さ以外では勝ったことがありません。そのため何をしてもあの男の影がちらつきま



す。大学に入っただけですぐまでは「いつか兄をぎゃふんと言わせてやる!」と意気込んでいたものです。しかしこの大学生活の中で心理学の、幅広く専門性の高い分野をいろいろとかじってみたり、大学の友達のすごさまざまな考え方に触れ合ったりしているうちに、別に兄貴を超える必要はないな、と考えるようになりました。「兄ができること」には、おそらく人生をかけたとしてもかなわないでしょう。もしかなくても、あの負けず嫌いはさらに強くなって僕を打ち負かしに来るからです。今は「兄はやらないこと」「僕ができること」をがんばってやっていきたいと思っています。まあそれでも兄が目標であることに変わりはないのですが。

※心理学部ホームページにも多数の写真を掲載しています。(裏表紙参照)





成長していく娘

山本 庸子

(心理学部心理学科1年次生 山本 弥生)

生まれ順による性格診断がはやっていますが、娘の場合は第一子しかも初孫。必然的に大人の手がかかりすぎ、自分から何かを訴えることはあまりありませんでした。

その娘を見る目が変わったのは、高校生になり進路を決めるころでした。無類の読書好きであることや、キャンパスの立地条件などから国文科への進学を薦めたのですが、心理学部以外は頭がないようでした。入学が決まってからは、「じゃあ将来はこんな職業に就いたらどう？」などと干渉する私たちに「私がやりたいのはそういう方面じゃない。」とにべもない言いようです。

電車を乗り継いでの通学、分厚い英語の専門書との格闘、そしてサークル活動と、数年前には想像できなかった積極的な娘に、どんどん知識を身につけていってほしいと願う一方、試行錯誤だった私たちの子育てが、近い将来彼女の目にどう映るのか戦々恐々としているこの頃です。

母より



娘へ

南波 ふく子

(心理学部心理学科2年次生 南波 菜穂)

3歳の時にゴルフと出会いました。それ以来ずっと、お父さんをコーチに二人三脚で練習をして大会に出場し、関西ジュニアの春国体にも出場し、夏大会連続優勝や関西パブリック優勝、プロの大会につながるマンディの試合も経験しました。

日本女子アマではマッチプレー出場を決める試合でプレーオフになり、最終ホール、約10m近いパットを入れ、見ていた人々の拍手、喝采を受け、勝ち残りました。

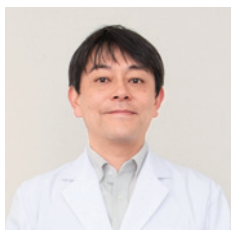
その時、お父さんは「涙がでそうだった」そうです。

それから同志社、心理学部に会いました。とても楽しいそうです。

朝、四時に起きてゴルフ場に行き、ラウンド練習や試合の後、授業に間に合うようであれば急いで学校に行きます。試合で一週間欠席することもあるためだそうです。こんなに授業に熱心になるとは思いませんでした。そのせいか大学でのゴルフの成績は…？です。母としてはその情熱をもう一度ゴルフに向けてほしい～と思っています。

年が明けると成人式です。これからも、様々な物事や、人との出会いが有ると思います。それらが良い方に向かいますように、心から願います。

母より



3年次生の専門的な実験演習について

心理学部心理学科 青山 謙二郎 教授

心理学部のために新しく多くの科目が作られましたが、その中の一つが3年次生の実験演習である「神経・行動心理学実験演習(1)」、「臨床・社会心理学実験演習(1)」、「発達・教育心理学実験演習(1)」です。これらは選択必修科目であり、学生は3年次生の春学期にこの3科目の中からどれか1科目の単位を履修しなければなりません。1年次生の実験演習は6つ基礎的な実験のテーマをローテーションで全員が学びましたが、3年次生の実験演習では、各自が希望する科目を選び、さらに科目の中から2つのテーマを選び、より進んだ専門的なレベルの技能を身につけるべく実習を受けました。今年の春学期がこの科目の初めての開講でしたので準備が大変でしたが、学生たちはとても熱心に授業に取り組んでくれました。

なお、今年度のテーマは、「神経・行動」では、「精神生理クラス(手塚洋介先生)」、「生化学分析クラス(畑敏道先生)」、「動物実験脳研究クラス(上北朋子先生)」、「動物実験行動研究クラス(青山謙二郎)」、「臨床・社会」では、「マーケティング・調査法クラス(中谷内一也・山崎真理子先生)」、「投影法クラス(佐藤豪先生)」、「面接法クラス(早樫一男・中西美和先生)」、「実験プログラミングAクラス(及川正典先生)」、「実験プログラミングBクラス(Visual Basic)(中鹿直樹先生)」、「発達・教育」では、「観察法クラス(田中あゆみ先生)」、「発達検査クラス(余語暁子先生)」でした。



大学院に臨床心理学コースができました

心理学部心理学科 佐藤 豪 教授

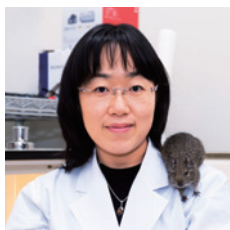
今年4月から心理学研究科博士課程前期課程(大学院の修士課程)が二つのコースにわかれ、心理学コースと臨床心理学コースになりました。後者はコースの名前の通り臨床心理学を専門に勉強し研究するコースです。

当然ですが現在はまだ1年次生しかおりません。しかし新しいコースで勉強しようと、学生たちも大変張り切っています。また臨床心理学コースの教員は6名ありますが、臨床心理学分野でそれぞれエキスパートと呼べる教員ばかりです。

この臨床心理学コースに先駆けて昨年の11月から心理臨床センターが同志社大学の継志館という建物の中にオープンしています。このセンターは学外からの相談者を受け入れ、心理検査、カウンセリング、心理療法などを行う施設です。この

施設は基本的に臨床心理学コースの大学院生が研修を行うための施設となっています。臨床心理学は実践の学問ですので、実際に対人援助をするためのトレーニングが必要で、この研修施設と学外での研修を行います。このコースはまだ始まったばかりですので、教員も学生も一体となって、同志社大学に臨床心理学を根付かせようと努力しています。

同志社大学の心理学は従来から基礎と臨床をつなぐという理念のもとに、研究・教育を進めてきました。このコースができることによって、さらにこの理念を広げてゆくことができるものと確信しております。



ラットのハンドリング

心理学部心理学科 上北 朋子 助教

心理学実験演習(1年次生科目)では15人程度の小グループで6つの実験をオムニバス式に回っていきます。そのうちの1つはラットを用いた学習実験です。ラットを見るのは人生初めてという学生がほとんどです。というわけで、実習の初日は「キャー」、「ワー」、「カワイイ」、「しっぽキモイ」、などの大騒ぎになります。初日の課題はハンドリングという操作について学ぶことです。ハンドリングは、ラットが自然体で実験に臨めるよう(これは擬人的表現なのでレポートではNG)、実験前にラットを手で持ってなでたり、軽くつかんだりして、実験者の手に慣らす操作です。ペットをお持ちだと感じることだと思いますが、人間がびくびくしながら動物に接すると、それは動物にも伝わって、動物の緊張を高めることにもなります。実験動物が人に触られることを



怖がっている状態では、よいデータがとれません。動物が怖がらずに色々な反応レパトリーを出して試行錯誤してくれると、うまく学習が進んでいきます。ハンドリングは心理学の動物実習で最初に学ぶことなのですが、その大切さに気づいていない研究者はたくさんいます。心理学出身の研究者は動物の扱いがそこはかとなく良いと評価されたことがあります。必ずしも科学的ではない、「そこはかとなく良い」ことが、実は信頼性のある質の高い行動データを得る最初のステップなのです。最初はラットをつかむこともできなかった学生でも、実習が終わるころになると、ヒョイと片手で持ち上げることができるようになり、ラットは安心してその手の中でじっとしています。この光景を見るたび、動物実習が意義あるものであったと嬉しくなります。



家族と近づく、他者と近づく

心理学部心理学科 早樫 一男 教授

「お子さんのお名前はどのようにして命名されましたか?」「お子さんのお名前にはどのような思いが込められていますか?」

ご家族との相談場面において、家族の紹介後、このように問いかけることがあります。

硬い表情であったご両親やご家族が子供の誕生の頃を思い出しながらになごやかな会話を始めます。日常の家族の風景に変わる瞬間です。面接担当者にとっては、ご相談に來られることになった子供のことだけでなく、家族という舞台背景がイメージできる手始めとなるのです。

命名や誕生にまつわるエピソードやドラマは家族によって様々であり、とても興味深いものです。

ところで、先日の「学校カウンセリン

グ」の授業の中では、二人一組で「自分の名前、命名について話をするように」という簡単なワークを行いました。この授業には心理学部の3年次生もたくさん受講しています。

授業後のミニレポートでは、「名前の込められた思いを再確認した」「相手の新しい面を知ることができた」等、様々な感想が寄せられました。

初対面の相手に関心を持ち、積極的にコミュニケーションしていく力は社会人になれば、より一層求められることになります。その際のツールの一つとしても、「命名」は役に立つかもしれません。

もしも、お子さんが命名について尋ねるようでしたら、ぜひ、協力してください。

新島襄クイズ

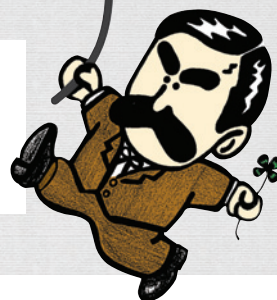
新島くんが出題するクイズに挑戦!!

新島襄検定問題集より抜粋

【正解数】

全 問…立派な同志社人！
4～5 問…もう少しで同志社人！
2～3 問…気持ちは同志社人！
0～1 問…がんばれば同志社人！

全問正解できるかな？



Q1

新島襄が生まれたのは、安中藩の江戸上屋敷でした。さて、当時の安中藩の藩主は誰？

- ①板倉勝静 ②板倉勝殷 ③板倉勝明

現在の群馬県安中市に拠点を置く石高3万の小藩でした。

③板倉勝明

Q2

新島襄は友人から借りた外国に関する本を読んで、「脳味噌が頭からとろけ出る」ほどのショックを受けました。さて、その本とは？

- ①『甘雨亭叢書』 ②『連邦志略』
③『病学通論』

中国にいたアメリカ人宣教師が漢文で書いたアメリカ入門書。

②『連邦志略』

Q3

1864年7月17日(新暦)の真夜中、新島襄は箱館港停泊中のアメリカ商船に小船で近づき乗船しました。さて、そのアメリカ商船の船名は？

- ①パナマ号 ②シカゴ号 ③ベルリン号

ニコライに脱国を反対された新島はボーター船を介して、ベルリン号の船長に上海まで運んでもらうよう話をつけたそうです。

③ベルリン号

Q4

新島襄は、国の内外を問わず日本人として大学を正規に卒業した最初の人物です。さて、新島が大学を卒業したのは何年？

- ①1868年 ②1870年 ③1872年

アサヒエーゼンツ州にあるアーモスト大学で理学士学位を取得して卒業しました。

②1870年

Q5

山本八重は、京都初のプロテスタントの洗礼をデイヴィスから受け、翌日、同じ場所の新島襄と結婚しました。さてその場所とは？

- ①デイヴィス邸 ②京都ホテル
③新島邸

現在の京都御苑内。山本寛馬の妹・八重は1876年正月に京都初のプロテスタント結婚式を挙げました。

①デイヴィス邸

Q6

用務員に対しても、新島襄はいつも「さん」づけで呼んでいました。彼は新島を慕い、死後も同志社墓地で新島の墓守をしています。さて、彼の名前とは？

- ①宇野重喜 ②高木庄太郎 ③松本五平

生前、新島を慕い、死後は校長の墓守をと遺言し、今も同志社墓地の門番の位置に眠っています。

③松本五平

CAMPUS Q&A

学生生活におけるよくある質問にお答えします。

Q1 子供の成績表の見方を教えてください。

A

同志社大学では1年間を2つの学期(春学期・秋学期)に分け、学期ごとに授業が完結し、試験を行って成績評価が行われる「セメスター制」を導入し、各学期終了後、学生には成績通知書をお渡ししています。心理学部父母会では、会員のご父母にも、毎年父母会報秋号とともに成績通知書をご自宅に郵送でお届けしています。その中で「成績表の見方について教えてください」というご質問もありますので、概要をご紹介します。

さらに詳しいことをお知りになりたい場合は、毎年秋開催の心理学部父母懇談会(キャンパスフェスタと同時開催)で教員との個人面談を行っていますので、ぜひこの機会をご利用ください。また、心理学部事務室や教務事務センターでも随時相談に応じています。

◆成績評価と単位修得

成績評価はGPA(Grade Point Average) 制度によって行われます。

GPA制度は、大学教育における成績評価制度のグローバル・スタンダードとして、現在、国際的に最も認知度の高い制度です。日本の大学においても、標準的成績評価制度として近年急速に普及しつつある制度で、同志社大学では2004年度生から適用しています。GPA制度導入の目的は、大学教育の国際競争環境に対する教員と学生双方の自覚を高め、GPAを核とした的確な履修指導や学習支援システムを充実させることにより、学生の自立的な自己教育を支援し、本学の教育を質的に一層向上させることにあります。

◆GPA制度の概要

各科目の成績評価を以下の判定基準に従い、5段階[A・B・C・D・F]で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点(Grade Point)を付与して、1単位あたりの評定平均値(Grade Point Average)を算出する方法です。GPAは、不合格を意味するF評価の成績を含めて以下の計算式で算出します。

<GPAの評価基準>

GPA	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

<GPAの算出方法>

$$\frac{(A) \times 4.0 + (B) \times 3.0 + (C) \times 2.0 + (D) \times 1.0 + (F) \times 0.0}{(A) + (B) + (C) + (D) + (F)}$$

(A)～(F)はA～Fの評価がついた科目の単位数の合計

成績通知書には履修した全ての科目の評価とGPAが記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価とGPAが記載されます。

◆成績評価の書き換えについて

GPA制度では、不合格評価「F」によって下がった全体の評価(GPA)を挽回するための措置が講じられています。F評価であった科目を再履修してD以上の評価を得た場合、最後についたF評価は新たな評価に書き換えられて算出されます。不合格となった場合も諦めることなく、再度履修し直して評価の挽回に挑戦することが大切です。

<注意事項>

「大学コンソーシアム京都単位互換科目」、「同志社女子大学単位互換科目」、「早稲田大学交流協定単位互換科目」、「教養演習科目」、「プロジェクト科目」は成績を書き換えません。

◆成績評価をサポートする様々な制度について

GPA制度のもとでは、学生・教員双方に「成績」について厳格に運用することが求められています。このため、不本意な気持ちで授業を受けることを防止するための「履修中止制度」のほか、大学が学生から授業内容・授業方法に改善の要望や成績評価に対する質問や異議申し立てを受け付ける「クレーム・コミティ制度」、病気またはやむを得ない事由により試験を受験できなかった場合の「追試験制度」などが設けられています。

また、厳格な成績評価とともに大学が学生により質の高い教育を提供していくための具体策の一環として、授業クラス毎の評定の平均値や分布はDUETに公表され、科目登録の際などに参照データとして活用することができます。

■ 2012年度心理学部父母会行事

● 新入生父母交流会(入学式)

入学式後、新入生のご父母対象に、学部および父母会活動の紹介を行います。

在学生による学生生活リポートも紹介の予定です。

日 時:2012年4月1日(日) 15:30 ~ 16:30 (予定)

場 所:京田辺キャンパス



● 総会・就職講演会・懇親会

新役員・決算・予算・事業計画などご審議ご承認いただく年1回の総会です。

就職講演会・懇親会も開催を予定しています。

皆様お誘い合わせのうえご出席お願い申し上げます。

(※詳細は、4月ごろ送付します。)

日 時:2012年5月12日(土) 11:00 ~ 14:00 (予定)

場 所:京田辺キャンパス



■ 学部学年暦

秋学期	9月21日(水)	秋学期始め・秋学期入学式
	22日(木)	履修科目登録変更
	24日(土)	履修科目登録変更
	26日(月)	講義開始
	10月10日(月)	体育の日(授業日)
	31日(月)	秋学期学費納入最終日
	11月5日(土)	同志社京田辺祭(スポーツフェスティバル)
	6日(日)	
	26日(土)	
	27日(日)	創立記念行事週間(休講)
	28日(月)	
	29日(火)	創立記念日(休日)
	12月25日(日)	キリスト降誕日(休日)
	27日(火)	冬期休暇開始

秋学期	2012年	
	1月5日(木)	冬期休暇終了
	6日(金)	講義再開
	23日(月)	創立者永眠の日
	26日(木)	講義最終日
	27日(金)	期末試験開始
	2月16日(木)	期末試験終了
	3月上旬	卒業可否発表
	3月20日(火)	
	21日(水)	秋学期卒業式・学位授与式
	22日(木)	
	24日(土)	在学生成績通知書配布
	31日(土)	秋学期終り

(名称)

第1条 本会は、同志社大学心理学部父母会と称する。

(目的)

第2条 本会は、同志社大学心理学部(以下「学部」という。)の教育方針に則り、教員と学部在籍する学生の父母又はこれに準ずる者(以下「学生の父母」という。)との連絡を密にし、学生の就学を支援するとともに、学部の教育研究事業を援助し、学部の充実発展に寄与することを目的とする。

(会員)

第3条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 父母会員 学生の父母
- (2) 参与会員 学部所属する専任教職員 若干名
- (3) 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、これに援助を与える者

(事業)

第4条 本会は、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学部と学生の父母との連絡を図る行事
- (2) 学生の教育、厚生、就職等に必要となる事業に対する援助
- (3) 学部の教育研究上、必要な施設の拡充及び学術研究に対する援助
- (4) 会報の発行及び配付
- (5) その他本会の目的を達成するために必要と認めた事業

(総会)

第5条 本会に総会を置く。総会は定期総会と臨時総会とする。

- 2 定期総会は毎年1回開催し、臨時総会は役員会の議を経て臨時に開催する。
- 3 総会は全会員をもって構成し、会長が議長となる。
- 4 総会の議事は、出席者の過半数をもって決定する。
- 5 定期総会は、次の事項を決定する。
 - (1) 役員の選出
 - (2) 会則の改正
 - (3) 事業計画、予算及び決算
 - (4) その他重要事項

(役員及び役員会)

第6条 本会は、事業推進と企画立案のため次の役員を置き、その役員をもって役員会を構成する。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会 計 1名
- (4) 委 員 若干名
- (5) 監 事 1名

第7条 役員は、次の方法によって選任する。

- (1) 父母会員の中から選出する。
- (2) 役員は、役員会の推挙により、定期総会に諮って決定する。

第8条 役員は、次の職務を行う。

- (1) 会長は、会務を統括し、本会を代表する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
- (3) 会計は、本会の会計を管理する。
- (4) 監事は、本会の会務及び会計を監査する。

第9条 役員の任期は1年とする。ただし、重任を妨げない。

第10条 役員会は、必要に応じ適宜開催し、次の事項を審議し、本会の事業を実施する。

- (1) 役員の推挙
- (2) 会則改正案の作成
- (3) 事業計画案、予算案及び決算案の作成
- (4) その他会務の運営、執行に関する事項

第11条 役員会は、緊急を要する案件は、総会に代り、審議、決定することができる。ただし、役員会で決定した事項は、総会において報告しなければならない。

第12条 役員会は、必要に応じて、この会則の施行に伴う細則、規程を定めることができる。

(運営資金)

第13条 本会の運営は、父母会員費、寄付金及びその他の収入による。

(父母会員費)

第14条 父母会員費は、学期額3,000円とする。ただし、学生が休学する場合は、父母会員費を免除する。

- 2 父母会員費は、毎学期の始めに納入しなければならない。
- 3 父母会員費の徴収は、大学に委託して行う。

(会計年度)

第15条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(事務局及び職員)

第16条 本会の事務局を心理学部事務室内に設ける。

- 2 本会は、本会の庶務会計等の業務を処理するため、職員を置く。

附 則

この会則は、2009年7月18日から施行する。

心理学部ホームページを
ご活用ください！
詳しい情報を随時発信
しています。



同志社大学心理学部

検索

<http://psych.doshisha.ac.jp/index.html>



●重要なお知らせ

「心理学部父母会」・「在学生の方へフोटアルバム」ページは、ログイン時にパスワードが必要です。各パスワードは父母会報春号にてお知らせしています。

(ご不明な場合は、お問い合わせください。)

ご父母のさまざまなご意見・感想などお待ちしております。
ハガキ・TEL・E-mailにて、下記宛てまでご一報ください。

同志社大学 心理学部父母会会報 第5号

平成23年12月9日

編集・発行／同志社大学心理学部父母会

〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都台1-3

TEL : 0774-65-8220 FAX : 0774-65-8223

E-mail : snr-fubo@mail.doshisha.ac.jp

印刷／株式会社 石田大成社